

名古屋大学附属図書館研究開発室  
年次報告  
2019

*Annual Report of Nagoya University  
Library Studies 2019*



## 目 次

I. 名古屋大学附属図書館研究開発室規程 .....	1
II. 室員名簿 .....	2
III. 事業報告 .....	3
IV. 研究開発概況 .....	5



## I. 名古屋大学附属図書館研究開発室規程

制 定 平成16年4月1日

### (設置)

第1条 名古屋大学附属図書館に研究開発室を置く。

### (目的)

第2条 研究会開発室は、大学における学術情報の収集、保存、提供等の教育支援活動のうち、附属図書館長が定める事項に関する研究開発及び図書館情報教育を行い、もってハイブリッド図書館としての機能の強化を図るとともに、高度な図書館サービスの実現に寄与することを目的とする。

### (室長)

第3条 研究開発室に室長を置き、附属図書館長をもって充てる。

2 室長は、研究開発室の業務を掌握する。

### (室員)

第4条 研究開発室に、専任室員若干名を置く。

2 専任室員は、本学大学教員のうちから、附属図書館長の推薦に基づき、総長が任命する。

3 第1項に定めるもののほか、研究開発室に兼任室員を置くことができる。

4 室員は、室長の指示に従い、研究開発室の業務に従事する。

### (細則)

第5条 この規程に定めるもののほか、研究開発室に関し必要な事項は、附属図書館長が定める。

### 附則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

## Ⅱ. 室員名簿

	氏名	専門領域／所属・職名／着任
室長	森 仁志	分化情報制御 生命農学研究科・教授（附属図書館長） 2015年4月～
兼任室員	長尾 伸一	社会思想・政治思想・政治経済学 経済学研究科・教授 2002年4月～
兼任室員	塩村 耕	日本文学 人文学研究科・教授 2003年4月～
兼任室員	外山 勝彦	知識情報処理・自然言語処理・法情報処理 情報基盤センター・教授 2013年3月～
兼任室員	小川 泰弘	自然言語処理・法情報処理 情報基盤センター・准教授 2013年4月～
兼任室員	山里 敬也	通信ネットワーク工学・教育工学 教養教育院・教授 2014年4月～
兼任室員	頼 偉寧	認知科学 教養教育院・特任准教授 2014年4月～
兼任室員	斎藤 夏来	日本史学 人文学研究科・教授 2017年4月～
兼任室員	駒水 孝裕	データベースシステム・データ工学 情報基盤センター・助教 2018年2月～
兼任室員	石川 寛	日本史学 人文学研究科・准教授 2019年7月～
研究員	松波 京子	西洋書誌学、科学史 研究開発室 2015年4月～

### Ⅲ. 事業報告

#### ①室員及び研究開発内容

室長	森 仁志	全体統括
兼任教授	長尾 伸一	(1) 西洋近代思想史関係貴重資料のデータベース作成 (2) 西洋近代思想史に関する学術情報発信の方法の研究：とくに電子ジャーナルによる国際誌の発行に関して
兼任教授	塩村 耕	(1) 附属図書館所蔵和書古典籍の調査・目録作成と〈名大システム〉古典籍書誌DB構築の研究、及び文化資源活用のための研究 (2) 西尾市岩瀬文庫所蔵古典籍の調査・DB化、及び文化資源活用の地域連携の研究
兼任教授 兼任准教授 兼任助教	外山 勝彦 小川 泰弘 駒水 孝裕	(1) 学術コンテンツ・サービスのための統合情報基盤の整備に関する調査
兼任教授	山里敬也	(1) 著作権の二次利用、とりわけ著作権のあり方および学習教材の開発についての研究開発
兼任准教授	頼 偉寧	(1) Develop a series of Nagoya University library workshops on "Logical Thinking Skills for Academic Writing". (2) Develop the library workshop series into a preliminary course for the Mei-Writing summer camp. (3) Develop teaching materials for the workshop series.
兼任教授	斎藤 夏来	(1) 高木家文書の初期文書について (2) 野間家文書の活用について
兼任室員	石川 寛	(1) 高木家文書の文化財調査に向けた整理作業 (2) コンテンツ開発・地域連携強化
研究員	松波 京子	(1) 西洋古典籍貴重書特殊文庫・コレクションのデジタル化作業及び目録整備 (2) 西洋古典籍貴重書特殊文庫・コレクションを補完する図書を選定 (3) その他

②活動概況（開発室全体に関する事項）

高木家文書常設展	
第46回トークサロン 江戸時代の源氏絵について	2019年8月8日
第47回トークサロン 混じりあう仏教説話画一淵之坊本善 光寺如来絵伝の世界一	2019年10月4日

③刊行物

旗本高木家と木曾三川流域治水（増刷）	2019年10月19日第2刷発行
名古屋大学附属図書館研究年報 第17号	2020年3月31日発行
名古屋大学附属図書館研究開発室年次報告2019	2020年3月31日発行



#### IV. 研究開発概況

■ 森 仁志（室長・附属図書館長・生命農学研究科教授）

■ 研究開発事項

全体統括

■ 成果のリスト

[その他の役割]

1. 国立大学図書館協会理事館館長
2. 国立大学図書館協会学術資料整備委員会委員長
3. 東海北陸地区国立大学図書館協会会長
4. 東海地区大学図書館協議会会長
5. 東海地区図書館協議会会長
6. 名古屋大学高等教育研究センター主催学生論文コンテスト審査員

■ 長尾 伸一（兼任室員・経済学研究科教授）

■ 研究開発事項

- (1) 西洋近代思想史関係貴重資料のデータベース作成
- (2) 西洋近代思想史に関する学術情報発信の方法の研究：とくに電子ジャーナルによる国際誌の発行に関して

■ 研究開発概況

- (1) 西洋近代思想史関係貴重資料のデータベース作成  
ホップズ文庫等、本学所蔵の西洋近代思想史関係貴重資料の利用を促進するため、HP 上で公開できる調査・学習用データベースを開発するため、本年度は昨年度の科学研究費・データベース開発促進費に基づく事業の継続を行い、水田文庫等の貴重図書のデジタル化事業を行った。
- (2) 西洋近代思想史に関する学術情報発信の方法の研究：とくに電子ジャーナルによる国際誌の発行に関して  
本年度は基盤研究Bを獲得し、図書館資料とデジタル資料を研究で統合する研究活動を行った（主に一橋大学図書館、早稲田大学図書館と連携）。

■ 成果のリスト

〔著書〕

- 1. 長尾伸一，梅澤直樹他編著『現代経済学史の射程:パラダイムとウェルビーイング』、ミネルヴァ書房、2019年4月

■ 塩村 耕（兼任室員・人文学研究科教授）

■ 研究開発テーマ

- (1) 附属図書館所蔵和書古典籍の調査・目録作成と〈名大システム〉古典籍書誌DB構築の研究、及び文化資源活用のための研究
- (2) 西尾市岩瀬文庫所蔵古典籍の調査・DB化、及び文化資源活用の地域連携の研究

■ 研究開発概況

- (1) 附属図書館所蔵和書古典籍の調査・目録作成と〈名大システム〉古典籍書誌DB構築の研究、及び文化資源活用のための研究
  - ・前年度に引き続き、附属図書館所蔵の古典籍の調査及びDB化作業をすすめた。
  - ・〈名大システム〉古典籍書誌DBの運営・改善を支援した。
  - ・「古書の会」月例会を主宰、図書館職員・一般市民・学生が参加して、古文献の読解能力と古典籍取り扱い能力の向上に努めた。
- (2) 西尾市岩瀬文庫所蔵古典籍の調査・DB化、及び文化資源活用の地域連携の研究
  - ・前年度に引き続き、岩瀬文庫所蔵古典籍の悉皆調査及びDB化作業をすすめた。
  - ・既に試験公開中の岩瀬文庫書誌DBのデータを改善した。
  - ・講演会及び岩瀬文庫に於ける展示を通して、岩瀬文庫の価値や悉皆調査の意義について社会に情報を発信した。
  - ・新編西尾市史編集委員会に委員（学芸・文化担当）として参加した。
  - ・2019年10月に西尾市で催された第14回「にしお本まつり」に実行委員会委員長として参加し、書物を通じた町おこしという地域連携に取り組んだ。

■ 成果のリスト

[論文]

1. 「伊藤東涯と石塚立所——一枚の書が示唆する立所の苦難の運命」、『日本古書通信』107号. 2019年4月. 2-4頁.
2. 「新しい古典としての西鶴」. 井上次夫等編『次世代に伝えたい「新しい古典」』. 武蔵野書院. 2020年\*月. \*-\*頁.
3. 「近世前期の出版界と西鶴」. 藤本幸夫編『日・中・韓坊刻本の比較研究』. 勉誠出版. 2020年\*月. \*-\*頁.

[著書]

1. 『中根東里展』(共著). 2020年10月. 佐野市郷土博物館刊. 120頁. ※佐野市郷土博物館第70回企画展の展示図録で中根東里の注釈付作品集を兼ねる。
2. 『(村上忠順叢書第二十) 忠順翁の『座右記』を読む』(単著). 2020年2月. 村上忠順翁顕彰会刊. 85頁. ※2018年度に催した四方樹大学の連続講義を講義録として刊行したもの。

〔講演等〕

1. 「江戸の人情を読む 古書簡の世界」. 2019年4月～. NHK文化センター名古屋 ※2020年3月まで毎月1回全12回の講演
2. 「江戸時代文人の手紙を楽しむ」. 2019年6月8日. 東洋文化振興会(於新日本法規出版(株)本社別館) ※講演
3. 「書は人なり—その13」. 2019年6月26日. 主催「ともしび」(女性市民団体、於岐阜市寺町瑞龍寺) ※講演
4. 「忠順翁の『座右記』を読む」. 2019年8月3日・9月6日・10月4日・11月1日. 村上忠順翁顕彰会(於豊田市前林交流館) ※連続講演
5. 「見ぬ世の人を友とすること」. 2019年8月6日. 愛知県立知立東高等学校 ※講演
6. 「見ぬ世の人を友とすること」. 2019年10月16日. 愛知県立半田高等学校「大学・学部・学科研究会」 ※講演
7. 「岩瀬文庫本をちょっとだけ専門的に読む～古典文学ゼミナール入門⑩」. 2019年10月26日. にしお本まつり(於西尾市岩瀬文庫) ※講演
8. 「県史市町村史の未来像—西尾市岩瀬文庫より考える—」. 2019年11月9日. 『愛知県史』全巻刊行記念シンポジウム(於ウィル愛知) ※講演とパネルディスカッション
9. 「三河に岩瀬文庫あり」. 2019年11月30日. 鉄道文学会全国大会(於ホテルアソシア豊橋) ※講演
10. 「偉大な三河の市民文庫」. 安城シルバーカレッジ(於安城市文化センター). 2020年2月12日 ※講演
11. 「「江戸を読む」番外編」. 岩瀬文庫特別講座(於西尾市岩瀬文庫). 2020年3月22日 ※講演
12. 「中根東里と芳子をめぐる物語」. 朝日カルチャーセンター湘南. 2019年3月28日 ※講演

〔その他〕

1. 「江戸を読む—この豊かなる古書世界—」. 『中日新聞』. 2019年4月2日(第71回)～2019年12月17日(第104回). ※毎週火曜日朝刊(『東京新聞』は日曜)にコラム記事を連載

■ 山里敬也（兼任室員・教養教育院教授）

■ 研究開発事項

- (1) 著作権の二次利用、とりわけ著作権のあり方および学習教材の開発についての研究開発

■ 研究開発概況

- (1) 著作権の二次利用、とりわけ著作権のあり方および学習教材の開発についての研究開発

第196回国会（2018年5月）にて著作権法の一部が改正する法律案が可決された。この改定により、教育現場においては、e-ラーニングなどの ICT 活用教育がやりやすくなる一方、補償金徴収分配団体である「一般社団法人授業目的公衆送信補償金管理協会」の動きに注視する必要がある。とりわけ、補償金の額については、学生1人あたり千円を中心に議論されており、大学への影響も大きい。

関連する事項としては、

改正著作権法第35条運用指針策定に関する論点整理」

[\(https://forum.sartras.or.jp/info/003/\)](https://forum.sartras.or.jp/info/003/)

が公表され、それに対するコメントを求められている。論点整理をご覧頂くと分かるが、著作権法改正の目玉である「公衆送信」については、サーバが同一校内にあるか否かでの議論となっており、本質を見失っている。「公衆送信」を「同時」に行うか「異時」なのかで補償金の対象になるか否かが決まるが、その点での整理が無い。実際には議論されたのかも知れないが、少なくとも公表されていない。

また、新型コロナウイルス感染症への対応として、本学でも NUCT 等のオンラインツールを利用した e-ラーニングによる教育の取り組みが始まろうとしている。当然、著作権についても配慮する必要がでてくる。

	遠隔合同授業	同時双方向型 (テレビ会議方式)	オンデマンド型 (インターネット配信型)
授業形態	教室から教室へ (各教室に教師、学生がいる)	スタジオ型 (学生がいない)	学生の自学自習
利用できるツール	Zoom, Vidyoなど	Zoom, Vidyoなど	NUCT, CANVAS
通信方向	双方向	双方向	一方向
著作物の利用形態	公衆送信	公衆送信	公衆送信
教授と受講の タイミング	同時	同時	異時 (メール等での資料 の配信を含む)
法改正前の扱い (今はココ)	原則許諾不要・無償 (著作権法 35条2項) 平成15年～	原則許諾必要 ライセンス料	原則許諾必要 ライセンス料
改正後の扱い	原則許諾不要・無償 (著作権法 35条2項) 補償金は将来課題	原則許諾不要 補償金 (著作権法 35条2項)	原則許諾不要 補償金 (著作権法 35条2項)

授業における利用行為と著作権法上の扱いについて（文化庁作成）から作成

「授業目的公衆送信補償金制度」は、改正法の公布日から3年を超えない日（令和3年5月24日）までに開始されることとなっているが、現時点では開始されていないため、教育機関において公衆送信を行う場合には、現行法に基づき権利者の許諾を要することになる。つまり、現時点では著作権者に一つ一つ許諾を取る必要があり、とても短期間でできるものではない。

以上を踏まえ、文化庁では新型コロナウイルス感染症対策に伴う事態の緊急性・重要性を鑑みて、著作権等管理事業者において格別の御配慮をお願いする旨、令和2年3月4日付で文書を発出している。

<https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/92080101.html>

本学でも、同様の配慮を著作権等管理事業者へお願いし、許諾を得る努力をすることになる。とは言え、著作権が及ぶ著作物の利用については節度ある利用が望ましく、また、できれば、現行法の範囲内での利用に留めることが望ましい。

今年度は研究開発室員としての研究費の支給が無く、十分な情報収集を行うことができなかった。新型コロナウイルス感染症がここまで広がることは予想できなかったこととは言え、改正著作権法第35条については十分なウォッチができていないことは残念である。

## ■ 成果のリスト

[論文]

1. S. Arai, H. Matsushita, Y. Ohira, T. Yendo, D. He, T. Yamazato, Maximum Likelihood Decoding Based on Pseudo-Captured Image Templates for Image Sensor Communication, NOLTA, IEICE, vol. 10, no. 2, pp. 173-189, 2019年4月
2. Y. Ohira, T. Yendo, S. Arai, and T. Yamazato, High performance demodulation method with less complexity for image-sensor communication, Optics Express, vol. 27, no. 15, pp. 21565-21578, 2019年7月
3. 中島康雄, 山里敬也, 荒井伸太郎, 田中宏哉, 田所幸浩, 雑音と1ビットアナログ-デジタル変換器を用いた DS-CDMA 信号の復調, 電子情報通信学会論文誌, vol. J102-B, no. 8, pp. 584-594, 2019年8月
4. 田所幸浩, 山里敬也, 田中宏哉, 荒井伸太郎, 中島康雄, 平岡真太郎, 確率共鳴現象の情報通信への応用を目指して, 電子情報通信学会論文誌, vol. J102-B, no. 6, pp. 445-458, 2019年6月
5. 亀川智史, 木下雅之, 山里敬也, 岡田啓, 藤井俊彰, 荒井伸太郎, 圓道知博, 鎌倉浩嗣, イメージセンサ可視光通信におけるプリコード PWM の性能評価, 電子情報通信学会論文誌, vol. J102-B, no. 12, pp. 962-965, 2019年12月

[国際学会]

1. M. Kinoshita, K. Kamakura, T. Yamazato, [Invited Talk] Visible Light Communication and Ranging Using High-speed Stereo Cameras, 2019 IEEE SUMMER TOPICALS MEETING SERIES, Photonics in Artificial Intelligence (Photonics-AI), 2019年7月
2. T. Mitani, T. Yamazato, K. Naito, Y. Mori, Analysis of Data Collected by the 700 MHz Band Intelligent Transport Systems for Reducing Ambulance Transportation Time, The 8th IEEE International Conference on Connected Vehicles and Expo (ICCVE), 2019年11月
3. R. Huang, M. Kinoshita, T. Yamazato, H. Okada, T. Fujii, S. Arai, T. Yendo, K. Kamakura, Calibration method for an integrated ranging and visible light communication system using stereo cameras, International Conference on Materials and Systems for Sustainability (ICMaSS), 2019年11月
4. T. Arisue, T. Yamazato, H. Okada, M. Kinoshita, S. Arai, T. Yendo, K. Kamakura, T. Fujii, BER Measurement for Transmission Pattern Design of ITS Image Sensor Communication Using DMD Projector, IEEE Consumer Communications and Networking Conference (CCNC), 2020年1月

[学会発表]

1. 中島康雄, 山里敬也, 荒井伸太郎, 田中宏哉, 田所幸宏, 雑音による1bit ADC 受信機の線形化, 電子情報通信学会 通信ソサイエティ大会, B-8-23, p. 97, 2019年9月
2. 有末知矢, 山里敬也, 岡田啓, 木下雅之, 荒井伸太郎, 圓道知博, 鎌倉浩嗣, 藤井俊彰, 街路灯として利用可能な DMD プロジェクタを用いた ITS 可視光通信送信機の基礎実験, 電子情報通信学会 基礎・境界ソサイエティ大会, A-9-1, p. 64, 2019年9月
3. 桶間椋, 五藤大介, 山里敬也, 山下史洋, 柴山 大樹, 畳込みニューラルネットワークによる2波 LEO-MIMO 制御信号のドップラーシフト推定, 電子情報通信学会 総合大会, B-3-7, p. 199, 2020年3月
4. R. Huang, M. Kinoshita, T. Yamazato, H. Okada, K. Kamakura, S. Arai, T. Yendo, T. Fujii, Range Estimation of LED Transmitter Using Phase-Only Correlation for ITS-VLC System via High-speed Stereo Cameras, IEICE General Conference, A-9-21, p. 100, 2020年3月
5. 齋藤将人, 中島康雄, 山里敬也, 荒井伸太郎, 羽多野裕之, 田中宏哉, 田所幸浩, 雑音と1bit ADC を用いた OFDM 信号復調の所要 FFT サイズに関する一検討, 電子情報通信学会 総合大会, A-9-11, p. 90, 2020年3月
6. 高木雅史, 荒井伸太郎, 山里敬也, 羽多野裕之, 齋藤将人, 田中宏哉, 田所幸浩, 干渉光を雑音として利用した確率共鳴現象によるフォトダイオード型可視光通信の一検討, 電子情報通信学会 総合大会, A-9-23, p. 102, 2020年3月
7. 堀内星哉, 羽多野裕之, 眞田耕輔, 森香津夫, 山里敬也, 荒井伸太郎, 齋藤将人, 田所幸浩, 田中宏哉, RSSI に基づく距離測定技術のための干渉信号を用いた Dither 法の適用に関する研究, 電子情報通信学会 総合大会, A-14-1, p. 118, 2020年3月
8. 中島康雄, 山里敬也, 荒井伸太郎, 齋藤将人, 羽多野裕之, 田中宏哉, 田所幸浩, 雑音を活用した1bit ADC 受信機と線形受信機の比較, 電子情報通信学会 総合大会, B-8-38, p. 185, 2020年3月
9. Y. H. J. Lai, A. Tsujii, T. Kasashima, T. Yamazato, H. Hatano, Distance and Velocity Measurement of Approaching Target Via 45 kHz Ultrasonic Sensor Array, IEICE General Conference, A-4-2, p. 35, 2020年3月
10. 桶間椋, 五藤大介, 山里敬也, 山下史洋, 柴山大樹, 深層学習を用いた 2 波 LEO-MIMO 制御信号の検出手法, 電子情報通信学会技術研究報告, SAT2019-3, pp. 13-17, 2019年5月
11. 中島康雄, 山里敬也, 荒井伸太郎, 田中宏哉, 田所幸浩, 1bit ADC を用いた受信機における雑音による線形化範囲の解析, 電子情報通信学会技術研究報告, RCS2019-149, pp. 19-24, 2019年8月
12. T. Arisue, T. Yamazato, H. Okada, M. Kinoshita, S. Arai, T. Yendo, K. Kamakura, T. Fujii, An Experiment of Image Sensor Communication



- Using Digital Micromirror Device Projector as a Vehicle Headlight, Workshop on Optical Wireless Communication for Smart City (OWC2), pp. 1-4, 2019年12月
13. K. Takahashi, K. Kamakura, M. Kinoshita, T. Yamazato, Nonlinear Companding Scheme for Parallel Transmission for Image-Sensor-Based Visible Light Communication, Workshop on Optical Wireless Communication for Smart City (OWC2), pp. 9-12, 2019年12月
  14. R. Huang, T. Yamazato, H. Okada, M. Kinoshita, K. Kamakura, S. Arai, T. Yendo, T. Fujii, Range Estimation for Traffic Light based on Visible Light Communication using Stereo Cameras, Workshop on Optical Wireless Communication for Smart City (OWC2), pp. 49-52, 2019年12月
  15. T. Yamamoto, T. Yamazato, H. Okada, M. Kinoshita, K. Kamakura, S. Arai, T. Yendo, T. Fujii, Nonlinearity Mitigation of Received Luminance Using Inverse Pattern of the LED array in Image Sensor Communication, Workshop on Optical Wireless Communication for Smart City (OWC2), pp. 53-56, 2019年12月
  16. K. Yamamura, K. Kamakura, M. Kinoshita, T. Yamazato, Three-Frame Demodulation for Non-Synchronous Square Wave Quadrature Amplitude Modulation, Workshop on Optical Wireless Communication for Smart City (OWC2), pp. 33-36, 2019年12月

等など

■ LAI Wai Ling 賴 偉寧 (兼任室員・教養教育院特任准教授)

■ 研究開発事項

- (1) Develop a series of Nagoya University library workshops on "Logical Thinking Skills for Academic Writing".
- (2) Develop the library workshop series into a preliminary course for the Mei-Writing summer camp.
- (3) Develop teaching materials for the workshop series.

■ 研究開発概況

- (1) Develop a series of Nagoya University library workshops on "Logical Thinking Skills for Academic Writing".

The aim of this research is to transform a graduate course into an annual library workshop series titled "Logical Thinking Skills and Academic Writing".

The goal of the workshop series is to teach students the necessary components of writing a satisfactory research paper. Specifically, the workshops aim to help graduate students as well as undergraduate students, through step-by-step training in logical thinking, develop the skills needed to write an academic paper with a clear thesis statement and convincing support.

- (2) Develop the library workshop series into a preliminary course for the Mei-Writing summer camp.

From 2020, the library workshop series will be used as one of the selection criteria for students who would like to participate in the Mei-Writing summer camp. This means that a wider range of students may join the workshop series as a preliminary course for the summer camp. In order to develop the workshop series into a preliminary course for the summer camp, the primary goal in (1) would have to be adjusted. New teaching methods and materials would have to be developed.

- (3) Develop teaching materials for the workshop series.

A textbook titled "The Thesis Statement Recipe: Textbook for the Library Workshop Series on Academic Writing and Logical Thinking Skills" was published internally by the library, and was used at the workshop series in 2019. Further development of the textbook is expected in 2020.

■ 成果のリスト

[論文]

1. Lai, W. L., Todayama, K. "Why we need a Construction Approach to

Logic Education" in *Adapting Human Thinking and Moral Reasoning in Contemporary Society*. Edited by Yama, H., Salvano-Pardieu, V. IGI Global, 2019.

2. Lai, W. L. "Introduction to Mei-Writing Summer Camp". *Annals of Nagoya University Library Studies*. No. 17. 2020.

[講演]

1. Lai, W. L. "科学における哲学と倫理 - Part I". Invited Lecture Series. Research Institute for Interdisciplinary Science. Okayama University. November 27, 2019.
2. Lai, W. L. "科学における哲学と倫理 - Part II". Invited Lecture Series. Research Institute for Interdisciplinary Science. Okayama University. November 28, 2019.
3. Lai, W. L. "科学における哲学と倫理 - Part III". Invited Lecture Series. Research Institute for Interdisciplinary Science. Okayama University. November 29, 2019.

[その他]

1. Lai, W. L. "Why is it important to think logically for your writing". Nagoya University Library workshops on "Academic Writing and Logical Thinking Skills", May 15, 2018.
2. Lai, W. L. "How to make your writing clear". Nagoya University Library workshops on "Academic Writing and Logical Thinking Skills", May 22, 2018.
3. Lai, W. L. "How to use logic practically". Nagoya University Library workshops on "Academic Writing and Logical Thinking Skills", May 29, 2018.
4. Lai, W. L. "How to make your writing convincing". Nagoya University Library workshops on "Academic Writing and Logical Thinking Skills", June 5, 2018.
5. Lai, W. L. "Final Presentations". Nagoya University Library workshops on "Academic Writing and Logical Thinking Skills", June 12, 2018.

■ 齋藤夏来（兼任室員・人文学研究科教授）

■ 研究開発事項

- (1) 高木家文書の初期文書について
- (2) 野間家文書の活用について

■ 研究開発概況

- (1) 高木家文書の初期文書について

附属図書館所蔵高木家文書のうち、とくに戦国期に関わる初期文書や先祖の由来に関わる文書について、関連情報の整理を進めた。本年度は、和歌山城天守閣内で展示されていた高木家文書の存在を確認し、情報共有をおこなった。

- (2) 野間家文書の活用について

附属図書館所蔵野間家文書について見出された、知多半島大仙寺の過去帳との関連について、学会発表および論考執筆をおこなった。

■ 成果のリスト

[学会発表]

- 1. 「知多大仙寺檀越天木氏をめぐる古文書・過去帳・系図」『名古屋大学附属図書館研究年報』17(2020年3月刊行予定)

[学会発表]

- 1. 「中世寺庵主の兵農分離と僧俗分離」(中世史・近世史研究会合同2020年1月11日例会報告、於名古屋大学文学部大会議室)

## ■ 石川 寛（室員・文学研究科特任准教授）

### ■ 研究開発事項

- (1) 高木家文書の文化財調査に向けた整理作業
- (2) コンテンツ開発・地域連携強化

### ■ 研究開発状況

- (1) 高木家文書の文化財調査に向けた整理作業

1. 目録整備作業

名古屋大学附属図書館が所蔵する高木家文書について、昨年度に引き続き目録整備作業を実施し、F 家政、G 財政、H 明治および補遺文書の整理に取りかかった。

2. 文化財指定

2019年7月23日 文部科学省告示第26号において、高木家文書が国の重要文化財に指定された。名称は「交代寄合西高木家関係資料」、対象は文書・記録類32647点、典籍類109点である。指定資料の一部は東京国立博物館「平成31年 新指定 国宝・重要文化財」（4月16日～5月6日）に出品された。

- (2) コンテンツ開発・地域連携強化

1. 名古屋市博物館特別展

名古屋市博物館で開催された特別展「治水・震災・伊勢湾台風」（2019年9月21日～11月4日）に高木家文書等108点を出陳した。

2. 高木家文書のデジタル化と修復

高木家文書のデジタル化を進めるとともに、治水資料の修復計画を策定した。

3. 本学以外の高木家文書

個人所蔵の東高木家治水文書、蓬左文庫所蔵の東高木家文書、和歌山市所蔵の吉備慶三郎氏寄贈文書の撮影をおこない、順次、高木家文書デジタルデジタルライブラリーに登録した。また、江戸時代に高木家と共に木曾三川流域の河川管理を担った美濃郡代笠松陣屋堤方役所の資料群（岐阜県歴史資料館）についても撮影に着手した。

### ■ 成果のリスト

[論文等]

1. 名古屋市博物館特別展図録『治水・震災・伊勢湾台風』 2019年9月21日 名古屋市博物館(共著)
2. 『旗本高木家と木曾三川流域治水』 2019年10月19日第2刷発行
3. 「高木三家文書の現状と統合—高木家文書調査報告2019—」『名古屋大学附属図書館研究年報』17 2020年3月

[講演・講義]

1. アーカイブズ学入門—文書史料の世界をあるく— 第5回「前近代のアーカイブズ—古文書実習—」(全学教育科目) 2019年11月18日

〔その他〕

1. クラウドファンディング寄付者イベント「名大教員によるギャラリートーク」 2019年4月23日
2. 名瀬地区高等学校社会科教育研究会 日本史部会「現地見学会・名古屋大学 高木家文書の紹介」 2019年6月25日
3. 大垣共立銀行役員見学会 2019年8月26日
4. 厦大学歴史学教授等5名が来館して高木家文書見学および意見交換 2019年9月6日

■ 松波 京子（研究員・研究開発室）

■ 研究開発事項

- (1) 西洋古典籍貴重書特殊文庫・コレクションのデジタル化作業及び目録整備
- (2) 西洋古典籍貴重書特殊文庫・コレクションを補完する図書の選定
- (3) その他

■ 研究開発概況

- (1) 西洋古典籍貴重書特殊文庫・コレクションのデジタル化作業及び目録整備
  - ・ Hobbes I を中心に、「名古屋大学附属図書館西洋古典籍デジタルライブラリー」に追加する資料の選定およびデジタル化作業等及び対象資料の目録の再調査を行った。これらについては、2019年度末に西洋古典籍デジタルライブラリーにて共に公開した。
  - ・ 当館のコレクションを補完する資料を選定した。
- (2) 西洋古典籍貴重書特殊文庫・コレクションを補完する図書の選定
  - ・ 当館のコレクションを補完する資料を選定した。
- (3) その他
  - ・ 水田名誉教授より寄贈された一般研究図書の受入れ準備を行った。

■ 成果のリスト

[報告書]

1. 松波京子「<シンポジウム>書物の記述・世界の記述 ―書誌が描く18世紀啓蒙の世界、西洋古典籍の書誌学的研究成果と図書館総合目録への反映 ―現状と課題について―」、『一橋大学社会科学古典資料センター Study Series 』No. 76(2020年3月)、pp. 43-53.

## 江戸時代の源氏絵について

語り：  
高橋 亨 名誉教授



『源氏物語絵屏風』  
国文学研究資料館所蔵

江戸時代、特に17世紀には『源氏物語』の絵画作品が多く作られた。絵巻としては、近年注目されている「幻の源氏物語絵巻」(盛安本)があり、土佐派や住吉派の画帖や、狩野派また岩佐又兵衛派の屏風絵などもある。

4月に、ニューヨークのメトロポリタン美術館で大規模な源氏物語絵画展があり、コロンビア大学と共催の国際シンポジウムもあって私も参加した。それらの体験報告とともに、架蔵の源氏絵も紹介する。

2019年8月8日(木) 午後6時～  
名古屋大学中央図書館2階ディスカバリスクエア

参加無料  
申込不要  
会員以外の方も歓迎します

名古屋大学附属図書館友の会 TEL 052-789-3684 FAX 052-789-3694 E-Mail tomo@nu.nagoya-u.ac.jp URL http://www.nu.nagoya-u.ac.jp/tomo/	(後援) 名古屋大学附属図書館、 同研究開発室	
--	-------------------------------	--

## 混じりあう仏教説話画

— 淵之坊本善光寺如来絵伝の世界 —  
語り：鷹巣 純 (愛知教育大学美術教育講座教授)

善光寺の阿弥陀三尊像(善光寺如来)は、日本で最も知られた霊験仏のひとつです。

この仏像が現代にいたるまで大変な人気を維持してきた背景には、既存の説話から「いいとこ取り」して作られた、巧妙な縁起説話の存在がありました。

善光寺の宿坊・淵之坊が所蔵する善光寺如来絵伝は、そこからさらに「いいとこ取り」して作られた、善光寺如来説話の進化系です。

淵之坊本善光寺如来絵伝を通して、絵画で説話を語るということについて考えてみましょう。

2019年10月4日(金) 午後6時～  
名古屋大学中央図書館2階ディスカバリスクエア

参加無料  
申込不要  
会員以外も歓迎

名古屋大学附属図書館友の会 TEL 052-789-3684 FAX 052-789-3694 E-Mail tomo@nu.nagoya-u.ac.jp URL http://www.nu.nagoya-u.ac.jp/tomo/	(後援) 名古屋大学附属図書館、 同研究開発室	
--	-------------------------------	--



名古屋大学附属図書館研究開発室年次報告

第18号 (2019年度)

2020年10月1日発行

編集・発行 名古屋大学附属図書館研究開発室  
〒464-8601 名古屋市千種区不老町  
電話 052-789-3697  
URL <http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/libst/>  
E-mail [libst@nul.nagoya-u.ac.jp](mailto:libst@nul.nagoya-u.ac.jp)

